

小学校国語科 学習指導要領 新旧対照表

現行学習指導要領は、新学習指導要領に合わせて、前後を入れ替える等の変更を加えています。また、新学習指導要領には、現行からの変更箇所を下線を引いてあります。

<p>現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p>新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p>ポイント</p>
<p>第 1 目標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第 1 学年及び 2 学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。</p>	<p>第 1 目標</p> <p><u>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</u></p> <p>(1) <u>日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</u></p> <p>(2) <u>日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</u></p> <p>(3) <u>言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</u></p> <p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第 1 学年及び 2 学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) <u>日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</u></p> <p>(2) <u>順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。</u></p> <p>(3) <u>言葉がもつよさを感じるとに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝合おうとする態度を養う。</u></p> <p>2 内容</p> <p>〔知識及び技能〕</p>	<p>・全学年共通の国語科の目標。</p> <p>(1)は、「知識・技能」の目標。</p> <p>(2)は、「思考力・判断力・表現力等」の目標。</p> <p>(3)は、「学びに向かう力・人間性等」の目標。</p> <p>(1)は、「知識・技能」の目標。</p> <p>(2)は、「思考力・判断力・表現力等」の目標。</p> <p>(3)は、「学びに向かう力・人間性等」の目標。</p> <p>・「内容」の構成を、「知識及び技能」と、「思考力、判断力、表現力等」に変更。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>(イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。</p> <p>〔A 話すこと・聞くこと〕(1)より移行)</p> <p>ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(エ)長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。</p> <p>(オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p> <p>ウ 文字に関する事項</p> <p>(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 第 1 学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 第 2 学年においては、学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第 1 学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>(1) <u>言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができよう指導する。</u></p> <p>ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、<u>姿勢や口形、発声や発音</u>に注意して話すこと。</p> <p>ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>エ 第 1 学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第 2 学年においては、学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、文や章の中で使うともに書き、文や章の中で使うともに書き、文や章の中で使うともに書き、第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ <u>身近なことを表す語句の量を増し</u>、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに<u>気付き、語彙を豊かにすること。</u></p>	<p>・「きまり」から「使い方」へ変更。「身に付けることができるよう指導する」を追加。</p> <p>・現行版の「指導事項」からの移行。こうした「移行」が多くなされているので、注意が必要。</p> <p>・現行版の「事項」や「指導事項」を統合している。こうした「統合」が多くなされているので、注意が必要。</p> <p>・第1学年と第2学年の指導内容、配当漢字には変更・増減はない。</p> <p>・「学年別漢字配当表」の漢字数は 20 字増えて、1026 字となった。</p> <p>・語彙指導の改善・充実が改訂の要点の一つ。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p> <p>(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉</p> <p>ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</p> <p>〈「B 書くこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考へること。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 時間的な順序や事柄の順序などを考へながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ア 伝統的な言語文化に関する事項</p> <p>(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。</p> <p>(新設)</p> <p>(2) 書写に関する次の事項について指導する。</p> <p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>	<p>カ 文の中における主語と述語との関係に<u>気付く</u>こと。</p> <p>キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>(2) <u>話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア <u>共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。</u></p> <p>(3) <u>我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。</p> <p>イ <u>長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。</u></p> <p>ウ 書写に関する次の事項を理解し<u>使う</u>こと。</p> <p>(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しく書くこと。</p> <p>(イ) <u>点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。</u></p> <p>(ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を</p>	<p>・音読・朗読は全学年ともに、[知識・技能]に移行している。</p> <p>・「情報の扱い方」に関する事項を新設。今回改訂の要点の一つ。</p> <p>・アは「情報と情報との関係」、イは「情報の整理」に関する事項。(第1学年及び第2学年には、「イ」の設定はない。)</p> <p>・「言語文化」の定義については、現行版と同様。(解説・国語編を参照。)</p> <p>・言語感覚を養う基盤として、新設。</p> <p>・「指導する」から「理解し使うこと」に変更。</p>

<p>現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p>新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p>ポイント</p>
<p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉 カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。</p> <p>A 話すこと・聞くこと (1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。(再掲) ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。(再掲) エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。 エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと (1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。 ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必</p>	<p>正しく書くこと。</p> <p>エ <u>読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。</u></p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 イ 相手に伝わるように、<u>行動したことや経験したことに基づいて</u>、話す事柄の順序を考えること。 ウ <u>伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</u></p> <p>エ 話し手が 知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、<u>話の内容を捉えて感想をもつこと。</u> オ <u>互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア <u>紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。</u> イ 尋ねたり応答したりするなどして、<u>少人数で話し合う活動。</u></p> <p>B 書くこと (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集め</p>	<p>・読書は、今回改訂の要点の一つ。 ・「読書」には、新聞・雑誌を読んだり、関係する資料を読んだりすることを含む。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。 ・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。 ○話題の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討、考えの形成(話すこと) ○表現、共有(話すこと) ○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(聞くこと) ○話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)</p> <p>・文末を「活動」と明記。 ・アは、話したり聞いたりする活動例。 ・イは、話し合う活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。 ・学習過程に沿って、次のように指導事項</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>要な事柄を集めること。</p> <p>イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。(再掲)</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。</p> <p>オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 想像したことなどを文章に書くこと。</p> <p>イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。</p> <p>ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。</p> <p>エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。</p> <p>オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。(再掲)</p> <p>ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。</p> <p>ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。(再掲)</p> <p>オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p>	<p>たり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 自分の<u>思いや</u>考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、<u>内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</u></p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、<u>語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。</u></p> <p>オ <u>文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、<u>見聞きしたことを書く活動。</u></p> <p>イ <u>日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。</u></p> <p>ウ <u>簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</u></p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を<u>身に付けることができるよう</u>指導する。</p> <p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。</p> <p>イ <u>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</u></p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を<u>考えて</u>選び出すこと。</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、<u>感想をもつこと。</u></p> <p>カ <u>文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p>	<p>を構成。</p> <p>○題材の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>○構成の検討</p> <p>○考えの形成、記述</p> <p>○推敲</p> <p>○共有</p> <p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・アは、説明的な文章を書く活動例。</p> <p>・イは、実用的な文章を書く活動例。</p> <p>・ウは、文学的な文章を書く活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p> <p>・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。</p> <p>○構造と内容の把握</p> <p>○精査・解釈</p> <p>○考えの形成</p> <p>○共有</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>ア 本や文章を楽しんだり, 想像を広げたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたり, 物語を演じたりすること。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 エ 物語や, 科学的なことについて書いた本や文章を読んで, 感想を書くこと。 オ 読んだ本について, 好きなところを紹介すること。</p> <p>【第 3 学年及び 4 学年】</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 相手や目的に応じ, 調べたことなどについて, 筋道を立てて話す能力, 話の中心に気を付けて聞く能力, 進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに, 工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 (2) 相手や目的に応じ, 調べたことなどが伝わるように, 段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに, 工夫をしながら書こうとする態度を育てる。 (3) 目的に応じ, 内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに, 幅広く読書しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>(1) 「A 話すこと・聞くこと」, 「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して, 次の事項について指導する。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p style="padding-left: 40px;">(ア) 言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉</p> <p>ウ 相手を見たり, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意したりして話すこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p>	<p>ア 事物の仕組みを説明した文章などを<u>読み, 分かったことや考えたことを述べる活動</u>。 イ <u>読み聞かせを聞いたり物語など読んだりして, 内容や感想などを伝え合ったり, 演じたりする活動</u>。 ウ <u>学校図書館などを利用し, 図鑑や科学的なことについて書いた本などを<u>読み, 分かったことなどを説明する活動</u></u>。</p> <p>【第 3 学年及び 4 学年】</p> <p>1 目標</p> <p>(1) <u>日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに, 我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする</u>。 (2) <u>筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い, 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えをまとめることができるようにする</u>。 (3) <u>言葉がもつよさに気付くとともに, 幅広く読書をし, 国語を大切に<u>して, 思いや考えを伝え合おうとする態度を養う</u></u>。</p> <p>2 内容</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>(1) <u>言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができよう指導する</u>。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話すこと。</p>	<p>・文末を「活動」と明記。 ・アは, 説明的な文章を読む活動例。 ・イは, 文学的な文章を読む活動例。 ・ウは, 本などから情報を得て活用する活動例。</p> <p>(1)は, 「知識・技能」の目標。 (2)は, 「思考力・判断力・表現力等」の目標。 (3)は, 「学びに向かう力・人間性等」の目標。</p> <p>・「内容」の構成を, 「知識及び技能」と, 「思考力, 判断力, 表現力等」に変更。 ・「きまり」から「使い方」へ変更。「身に付けることができるよう指導する」を追加。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。</p> <p>(ウ) 送り仮名に注意して書き, また, 活用についての意識をもつこと。</p> <p>(エ) 句読点を適切に打ち, また, 段落の始め, 会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。</p> <p>ウ 文字に関する事項</p> <p>(ア) 第 3 学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, また, ローマ字で書くこと。</p> <p>(イ) 第 3 学年及び第 4 学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し, また, 語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p> <p>(キ) 修飾と被修飾との関係など, 文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p> <p>(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し, 使うこと。</p> <p>〈「B 書くこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 文章全体における段落の役割を理解し, 自分の考えが明確になるように, 段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉</p> <p>イ 相手や目的に応じて, 理由や事例などを挙げながら筋道を立て, 丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>〈「B 書くこと」(1)より移行〉</p> <p>エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p>	<p>ウ 漢字と仮名を用いた表記, 送り仮名の付け方, 改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに, 句読点を適切に打つこと。また, 第 3 学年においては, 日常使われている簡単な単語について, ローマ字で表記されたものを読み, ローマ字で書くこと。</p> <p>エ 第 3 学年及び第 4 学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, <u>話や文章の中で使うとともに</u>, 言葉には性質や役割による<u>語句のまとまり</u>があることを理解し, <u>語彙を豊かにすること</u>。</p> <p>カ <u>主語と述語との関係</u>, 修飾と被修飾との関係, 指示する語句と接続する語句の役割, <u>段落の役割</u>について理解すること。</p> <p>キ 丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p>	<p>・第 3 学年の指導内容, 配当漢字には変更・増減はない。</p> <p>・第 4 学年の配当漢字は, 都道府県名に用いる漢字 25 字が加わった。ただし, 23 字を 5 年と 6 年に移行したので, 差し引き 2 字の増で 202 字。</p> <p>・語彙指導の改善・充実が改訂の要点の一つ。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉 ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉 イ 相手や目的に応じて, 理由や事例などを挙げながら筋道を立て, 丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 エ 話の中心に気を付けて聞き, 質問をしたり感想を述べたりすること。</p> <p>〈「B 書くこと」(1)より移行〉 ウ 書こうとするものの中心を明確にし, 目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉 ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 イ 目的に応じて, 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え, 文章を読むこと。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉 ア 関心のあることなどから話題を決め, 必要な事柄について調べ, 要点をメモすること。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉 エ 目的や必要に応じて, 文章の要点や細かい点に注意しながら読み, 文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>〈第 5 学年及び第 6 学年「B 書くこと」(1)より移行〉 エ 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>〈〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イより移行〉 (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について, 辞書を利用して調べる方法を理解し, 調べる習慣を付けること。</p> <p>ア 伝統的な言語文化に関する事項</p>	<p>ク <u>文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。</u></p> <p>(2) <u>話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア <u>考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。</u></p> <p>イ <u>比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。</u></p> <p>(3) <u>我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p>	<p>・音読・朗読は全学年ともに, [知識・技能]に移行している。</p> <p>・「情報の扱い方」に関する事項を新設。今回改訂の要点の一つ。</p> <p>・アは「情報と情報との関係」に関する事項。</p> <p>・イは, 「情報の整理」に関する事項。</p> <p>・「言語文化」の定義については, 現行版と同様。(解説・国語編を参照。)</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。</p> <p>(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。</p> <p>ウ 文字に関する事項 (ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p> <p>(2) 書写に関する次の事項について指導する。 ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉 カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。 ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。(再掲) イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。(再掲) ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。(再掲) エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。(再掲)</p> <p>オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p>	<p>ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、<u>言葉の響きやリズムに親しむこと</u>。</p> <p>イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。</p> <p>ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の<u>書き方</u>への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。</p> <p>オ <u>幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと</u>。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア <u>目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと</u>。 イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、<u>話の中心が明確になるよう話の構成を考えること</u>。 ウ <u>話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること</u>。 エ <u>必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと</u>。 オ <u>目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること</u>。</p>	<p>・「指導する」から「理解し使うこと」に変更。</p> <p>・読書は、今回改訂の要点の一つ。 ・「読書」には、新聞・雑誌を読んだり、関係する資料を読んだりすることを含む。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。 ・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。 ○話題の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討、考えの形成(話すこと) ○表現、共有(話すこと) ○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(聞くこと) ○話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。</p> <p>ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。</p> <p>イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。(再掲)</p> <p>ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。(再掲)</p> <p>オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。</p> <p>カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をついたり、物語を書いたりすること。</p> <p>イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。</p> <p>ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。</p> <p>エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p>	<p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする<u>活動</u>。</p> <p>イ <u>質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動</u>。</p> <p>ウ 互いの考えを伝えるなどして、<u>グループや学級全体で話し合う活動</u>。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア <u>相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること</u>。</p> <p>イ <u>書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること</u>。</p> <p>ウ <u>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること</u>。</p> <p>エ 間違いを正したり、<u>相手や目的を意識した表現になっているか</u>を確かめたりして、<u>文や文章を整えること</u>。</p> <p>オ <u>書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること</u>。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 調べたことをまとめて報告するなど、<u>事実やそれを基に考えたことを書く活動</u>。</p> <p>イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く<u>活動</u>。</p> <p>ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く<u>活動</u>。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・ア、イは、話したり聞いたりする活動例。</p> <p>・ウは、話し合う活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p> <p>・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。</p> <p>○題材の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>○構成の検討</p> <p>○考えの形成、記述</p> <p>○推敲</p> <p>○共有</p> <p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・アは、説明的な文章を書く活動例。</p> <p>・イは、実用的な文章を書く活動例。</p> <p>・ウは、文学的な文章を書く活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。(再掲)</p> <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。</p> <p>エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。(再掲)</p> <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。(再掲)</p> <p>オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。</p> <p>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。</p> <p>ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</p> <p>エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p>	<p>ア 段落相互の関係に着目しながら、<u>考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。</u></p> <p>イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</p> <p>ウ <u>目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。</u></p> <p>エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて<u>具体的に想像すること。</u></p> <p>オ <u>文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。</u></p> <p>カ <u>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、<u>分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。</u></p> <p>イ 詩や物語などを読み、<u>内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</u></p> <p>ウ <u>学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。</u></p>	<p>・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○考えの形成 ○共有 <p>・文末を「活動」と明記。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アは、説明的な文章を読む活動例。 ・イは、文学的な文章を読む活動例。 ・ウは、本などから情報を得て活用する活動例。
<p>【第 5 学年及び 6 学年】</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>【第 5 学年及び 6 学年】</p> <p>1 目標</p> <p>(1) <u>日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</u></p> <p>(2) <u>筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。</u></p> <p>(3) <u>言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</u></p>	<p>(1)は、「知識・技能」の目標。</p> <p>(2)は、「思考力・判断力・表現力等」の目標。</p> <p>(3)は、「学びに向かう力・人間性等」の目標。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>2 内容</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>(1) 「A 話すこと・聞くこと」, 「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して, 次の事項について指導する。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(新設)</p> <p>(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。</p> <p>ウ 文字に関する事項</p> <p>(ア) 第 5 学年及び第 6 学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(エ) 語句の構成, 変化などについての理解を深め, また, 語句の由来などに関心をもつこと。</p> <p>(カ) 語感, 言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> <p>(オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。</p> <p>(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p> <p>(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p> <p>(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉</p>	<p>2 内容</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) <u>言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア <u>言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。</u></p> <p>イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>ウ <u>文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに, 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。</u></p> <p>エ 第 5 学年及び第 6 学年の各学年においては, 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ <u>思考に関わる語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 語句と語句との関係, 語句の構成や変化について理解し, 語彙を豊かにすること。</u>また, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, <u>語や語句を使うこと。</u></p> <p>カ <u>文の中での語句の係り方や語順, 文と文との接続の関係, 話や文章の構成や展開, 話や文章の種類とその特徴について理解すること。</u></p> <p>キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。</p> <p>ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>・「内容」の構成を, [知識及び技能]と, [思考力, 判断力, 表現力等]に変更。</p> <p>・「きまり」から「使い方」へ変更。「身に付けることができるよう指導する」を追加。</p> <p>・第 5 学年の配当漢字は, 8 字増えて 193 字となった。</p> <p>・第 6 学年の配当漢字は, 10 字増えて 191 字となった。</p> <p>・語彙指導の改善・充実は改訂の要点の一つ。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。</p> <p>(新設)</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉 ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報と関係付けること。</p> <p>〈「B 書くこと」(1)より移行〉 ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</p> <p>ア 伝統的な言語文化に関する事項</p> <p>(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。</p> <p>(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 (エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに興味をもつこと。(再掲)</p> <p>ウ 文字に関する事項</p> <p>(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> <p>〈「A 話すこと・聞くこと」(1)より移行〉 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</p> <p>(2) 書写に関する次の事項について指導する。 ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書</p>	<p>ケ <u>文章を音読したり朗読したりすること。</u></p> <p>(2) <u>話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u> ア <u>原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。</u></p> <p>イ <u>情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。</u></p> <p>(3) <u>我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u> ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、<u>言葉の響きやリズムに親しむこと。</u></p> <p>イ 古典について解説した文章を読んだり<u>作品の内容の大体を知ったり</u>することを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p> <p>ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとと</p>	<p>・音読・朗読は全学年ともに、[知識・技能]に移行している。</p> <p>・「情報の扱い方」に関する事項を新設。今回改訂の要点の一つ。</p> <p>・アは「情報と情報との関係」に関する事項。</p> <p>・イは、「情報の整理」に関する事項。</p> <p>・「言語文化」の定義については、現行版と同様。(解説・国語編を参照。)</p> <p>・「指導する」から「理解し使うこと」に変更。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>く速さを意識して書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>(新設)</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報に関係付けること。(再掲)</p> <p>イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。</p> <p>イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。</p> <p>ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。(再掲)</p> <p>イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。</p>	<p>もに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>(イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>(ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>オ <u>日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。</u></p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア <u>目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</u></p> <p>イ 話の内容が明確になるように、<u>事実と感想、意見とを区別するなど</u>、話の構成を考えること。</p> <p>ウ <u>資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</u></p> <p>エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。</p> <p>オ <u>互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。</p> <p>イ <u>インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</u></p> <p>ウ <u>それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。</u></p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 目的や意図に応じて、<u>感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。</u></p> <p>イ <u>筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。</u></p>	<p>・読書は、今回改訂の要点の一つ。</p> <p>・「読書」には、新聞・雑誌を読んだり、関係する資料を読んだりすることを含む。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p> <p>・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。</p> <p>○話題の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>○構成の検討、考えの形成(話すこと)</p> <p>○表現、共有(話すこと)</p> <p>○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(聞くこと)</p> <p>○話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)</p> <p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・ア、イは、話したり聞いたりする活動例。</p> <p>・ウは、話し合う活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p> <p>・学習過程に沿って、次のように指導事項を構成。</p> <p>○題材の設定、情報の収集、内容の検</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>ウ 事実と感想, 意見などを区別するとともに, 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p>エ 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p> <p>カ 書いたものを発表し合い, 表現の仕方に着目して助言し合うこと。</p> <p>(2) (1)に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 経験したこと, 想像したことなどを基に, 詩や短歌, 俳句をつくり, 物語や随筆などを書いたりすること。</p> <p>イ 自分の課題について調べ, 意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。</p> <p>ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため, 次の事項について指導する。</p> <p>ウ 目的に応じて, 文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり, 事実と感想, 意見などとの関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながらかんだりすること。</p> <p>エ 登場人物の相互関係や心情, 場面についての描写をとらえ, 優れた叙述について自分の考えをまとめること。</p> <p>イ 目的に応じて, 本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。</p> <p>エ 登場人物の相互関係や心情, 場面についての描写をとらえ, 優れた叙述について自分の考えをまとめること。</p> <p>オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い, 自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>(2) (1)に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導する</p>	<p>ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに, 事実と感想, 意見とを区別して書いたりするなど, <u>自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</u></p> <p>エ 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>オ <u>文章全体の構成や書き表し方などに着目して, 文や文章を整えること。</u></p> <p>カ <u>文章全体の構成や展開が明確になっているかなど, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見付けること。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア <u>事象を説明したり意見を述べたりするなど, 考えたことや伝えたいことを書く活動。</u></p> <p>イ 短歌や俳句をつくるなど, 感じたことや想像したことを書く活動。</p> <p>ウ <u>事実や経験を基に, 感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。</u></p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 事実と感想, 意見などとの関係を<u>叙述を基に</u>押さえ, 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。</p> <p>イ 登場人物の相互関係や心情などについて, <u>描写を基に</u>捉えること。</p> <p>ウ <u>目的に応じて, 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり, 論の進め方について考えたりすること。</u></p> <p>エ <u>人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすること。</u></p> <p>オ <u>文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめること。</u></p> <p>カ <u>文章を読んでまとめた意見や感想を共有し, 自分の考えを広げること。</u></p> <p>(2) (1)に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導するも</p>	<p>討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○構成の検討 ○考えの形成, 記述 ○推敲 ○共有 <p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・アは, 説明的な文章を書く活動例。</p> <p>・イ, ウは, 文学的な文章を書く活動例。</p> <p>・「身に付けることができるよう」を明記。</p> <p>・学習過程に沿って, 次のように指導事項を構成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○考えの形成 ○共有

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>ものとする。</p> <p>ア 伝記を読み, 自分の生き方について考えること。</p> <p>イ 自分の課題を解決するために, 意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。</p> <p>ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。</p> <p>エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。</p> <p>〈「C 読むこと」(1)より移行〉</p> <p>カ 目的に応じて, 複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p> <p>第 3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては, 次の事項に配慮するものとする。 (新設)</p> <p>(1) 第 2 の各学年の内容の指導については, 必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり, その後の学年で程度を高めて取り上げたりして, 弾力的に指導することができるようにすること。</p> <p>(2) 第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」, 「B 書くこと」, 「C 読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項については, 相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに, それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際, 学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また, 児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして, 指導の効果を高めるよう工夫すること。</p> <p>〈2(1)より移行〉</p> <p>ア 特定の事項をまとめて指導したり, 繰り返して指導したりすることが必要な場合については, 特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。</p> <p>(3) 第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については, 意</p>	<p>ものとする。</p> <p>ア <u>説明や解説などの文章を比較するなどして読み, 分かったことや考えたことを, 話し合ったり文章にまとめたりする活動。</u></p> <p>イ <u>詩や物語, 伝記などを読み, 内容を説明したり, 自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。</u></p> <p>ウ <u>学校図書館などを利用し, 複数の本や新聞などを活用して, 調べたり考えたりしたことを報告する活動。</u></p> <p>第 3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては, 次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) <u>単元など内容や時間のまとまりを見通して, その中で育む資質・能力の育成に向けて, 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際, 言葉による見方・考え方を働かせ, 言語活動を通して, 言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。</u></p> <p>(2) 第 2 の各学年の内容の指導については, 必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり, その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして, 弾力的に指導すること。</p> <p>(3) <u>第 2 の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については, 〔思考力, 判断力, 表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし, 必要に応じて, 特定の事項だけを取り上げて指導したり, それらをまとめて指導したりするなど, 指導の効果を高めるよう工夫すること。</u></p> <p>(4) 第 2 の各学年の内容の〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」</p>	<p>・文末を「活動」と明記。</p> <p>・アは, 説明的な文章を読む活動例。</p> <p>・イは, 文学的な文章を読む活動例。</p> <p>・ウは, 本などから情報を得て活用する活動例。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項。</p> <p>・弾力的な指導に関する配慮事項。</p> <p>・〔知識及び技能〕に関する配慮事項。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」の配当時は現行</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>図的, 計画的に指導する機会が得られるように, 第 1 学年及び第 2 学年では年間 35 単位時間程度, 第 3 学年及び第 4 学年では年間 30 単位時間程度, 第 5 学年及び第 6 学年では年間 25 単位時間程度を配当すること。その際, 音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。</p> <p>(4) 第 2 の各学年の内容の「B 書くこと」に関する指導については, 第 1 学年及び第 2 学年では年間 100 単位時間程度, 第 3 学年及び第 4 学年では年間 85 単位時間程度, 第 5 学年及び第 6 学年では年間 55 単位時間程度を配当すること。その際, 実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。</p> <p>(5) 第 2 の各学年の内容の「C 読むこと」に関する指導については, 読書意欲を高め, 日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに, 他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては, 本の題名や種類などに注目したり, 索引を利用して検索をしたりするなどにより, 必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお, 児童の読む図書については, 人間形成のため幅広く, 偏りがないうように配慮して選定すること。</p> <p>(6) 低学年においては, 生活科などとの関連を積極的に図り, 指導の効果を高めるようにすること。特に第 1 学年においては, 幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>	<p>に関する指導については, 意図的, 計画的に指導する機会が得られるように, 第 1 学年及び第 2 学年では年間 35 単位時間程度, 第 3 学年及び第 4 学年では年間 30 単位時間程度, 第 5 学年及び第 6 学年では年間 25 単位時間程度を配当すること。その際, 音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。</p> <p>(5) 第 2 の各学年の内容の「<u>思考力, 判断力, 表現力等</u>」の「B書くこと」に関する指導については, 第 1 学年及び第 2 学年では年間 100 単位時間程度, 第 3 学年及び第 4 学年では年間 85 単位時間程度, 第 5 学年及び第 6 学年では年間 55 単位時間程度を配当すること。その際, 実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。</p> <p>(6) 第 2 の第 1 学年及び第 2 学年の内容の「<u>知識及び技能</u>」の(3)のエ, 第 3 学年及び第 4 学年, 第 5 学年及び第 6 学年の内容の「<u>知識及び技能</u>」の(3)のオ及び各学年の内容の「<u>思考力, 判断力, 表現力等</u>」の「C読むこと」に関する指導については, 読書意欲を高め, 日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに, 他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。</p> <p>(7) 低学年においては, <u>第 1 章総則の第 2 の 4 の(1)を踏まえ</u>, 他教科等との関連を積極的に図り, 指導の効果を高めるようにするとともに, <u>幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に, 小学校入学当初においては, 生活科を中心とした合科的・関連的な指導や, 弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。</u></p> <p>(8) <u>言語能力の向上を図る観点から, 外国語活動及び外国語科など他教科等との関連を積極的に図り, 指導の効果を高めるようにすること。</u></p> <p>(9) <u>障害のある児童などについては, 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的, 組織的に行うこと。</u></p>	<p>と同じ。</p> <p>・「書くこと」の配当時間は現行と同じ。</p> <p>・「読書」及び「読むこと」に関する配慮事項。</p> <p>・低学年における他教科等や幼児教育との関連についての配慮事項。</p> <p>・外国語活動及び外国語科など, 他教科等との関連についての配慮事項。</p> <p>・障害のある児童への配慮についての事項。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(7) 第 1 章総則の第 1 の 2 及び第 3 章道徳の第 1 に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第 3 章道徳の第 2 に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第 2 の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(1) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(新設)</p> <p>〈第 3 学年及び第 4 学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イより移行〉</p> <p>(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p> <p>(新設)</p> <p>ウ 漢字の指導については、第 2 の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。</p> <p>(イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。</p> <p>(新設)</p>	<p>(10) 第 1 章総則の第 1 の 2 の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第 3 章特別の教科道徳の第 2 に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第 2 の内容取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) <u>〔知識及び技能〕に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。</u></p> <p>ア <u>日常の言語活動を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。</u></p> <p>イ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる<u>活動を取り入れる</u>など、調べる習慣が身に付くようにすること。</p> <p>ウ <u>第 3 学年におけるローマ字の指導に当たっては、第 5 章総合的な学習の時間の第 3 の 2 の(3)に示す、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。</u></p> <p>エ 漢字の指導については、第 2 の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。</p> <p>(イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。</p> <p>(ウ) <u>他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と</u></p>	<p>・道徳科などとの関連についての配慮事項。</p> <p>・〔知識及び技能〕に示す事項の取扱い。</p> <p>・調べる習慣を身に付ける際の内容の取扱い。</p> <p>・ローマ字に関する事項の取扱い。</p> <p>・他教科等と関連付けた漢字指導の取扱</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>(ウ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。</p> <p>イ 伝統的な言語文化に関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。</p> <p>(2) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第 3 学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間 30 単位時間程度を配当すること。 (新設)</p> <p>〈第 3 の 1 より移行〉</p> <p>(2) 第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。(再掲)</p> <p>〈第 3 の 1 より移行〉</p> <p>(5) 第 2 の各学年の内容の「C 読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがな</p>	<p><u>関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。</u></p> <p>(エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。</p> <p>オ <u>各学年の(3)のア及びイに関する指導については、各学年で行い古典に親しめるよう配慮すること。</u></p> <p>カ <u>書写の指導については、第 2 の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</u></p> <p>(ア) <u>文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。</u></p> <p>(イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。</p> <p>(ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第 3 学年以上の各学年で行うこと。</p> <p>(エ) <u>第 1 学年及び第 2 学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。</u></p> <p>(2) <u>第 2 の内容指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。</u></p> <p>(3) <u>第 2 の内容指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがなく選定すること。</u></p>	<p>い。</p> <p>・伝統的な言語文化に関する事項の取扱い。</p> <p>・硬筆指導の学年は現行と同じ。</p> <p>・毛筆指導の学年は現行と同じ。</p> <p>・情報機器の活用に関する事項。</p> <p>・学校図書館などの活用に関する事項。</p>

<p style="text-align: center;">現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p style="text-align: center;">新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p>
<p>いように配慮して選定すること。(再掲)</p> <p>3 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと的能力及び読むこと的能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p> <p>(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。</p> <p>カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。</p> <p>ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>(3) 第 2 の各学年の内容の「C 読むこと」の教材については、説明的な文章や文学的文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。</p> <p>別表 学年別漢字配当表</p>	<p>3 教材については、次の事項留意するものとする。</p> <p>(1) 教材は、第 2 の各学年目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題 や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第 2 の各学年の内容の[思考力, 判断力, 表現力等]の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p> <p>(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的に<u>物事を捉え考察し</u>、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。</p> <p>カ 生命を尊重し、他人思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。</p> <p>ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うに役立つこと。</p> <p>(3) 第 2 の各学年内容[思考力, 判断力, 表現力等]の「C読むこと」の教材については、<u>各学年で説明的な文章や文学的文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むのを取り上げること。</u></p> <p>別表 学年別漢字配当表</p>	<p>・教材についての配慮事項。</p>

<p>現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p>新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p>ポイント</p>
<p>第一学年 一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見五口校左三山子四糸字耳七車 手十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫町天田土二日 入年白八百文木本名目立力林六 (80 字)</p> <p>第二学年 引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近 兄形計元言原戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細作算止市矢姉 思紙寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親図数西声星晴切雪船線前組走 多太体台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当東答頭同道誑内南肉馬売買 麦半番父風分聞米歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用囉来里理話 (160 字)</p> <p>第三学年 悪安暗医委意育員院飲運泳駅央横屋温化荷界開階寒感漢館岸起期客究急級 宮球去橋業曲局銀区苦具君係輕血決研泉庫湖向幸港号根祭皿仕死使始指齒 詩次事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身 神真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題炭短談着注柱丁帳調追定庭 笛鉄転都度投豆島湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆氷表秒病品 負部服福物平返勉放味命面問役菓由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列練 路和 (200 字)</p> <p>第四学年 愛案以衣位困胃印英榮塩億加果貨課芽改械害街各覚完官管関観願希季紀喜 旗器機議求泣救給拳漁共協鏡競極訓軍郡徑型景芸欠結建健験固功好候航康 告差菜最材昨札刷殺察參産散残士氏司試児治辞失借種周祝順初松笑唱燒 象照賞臣信成省清静席積折節説淺戦選然争倉巢束側続卒孫帶隊達単置仲貯 兆腸低底停の典伝徒努灯堂働特得毒熱念敗梅飯飯飛費必票標不夫付府副粉 兵別辺変便包法望牧未満未脈民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例歴連老</p>	<p>第一学年 一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見五口校左三山子四糸字耳七車 手十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫町天田土二日 入年白八百文木本名目立力林六 (80 字)</p> <p>第二学年 引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近 兄形計元言原戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細作算止市矢姉 思紙寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親図数西声星晴切雪船線前組走 多太体台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当東答頭同道誑内南肉馬売買 麦半番父風分聞米歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用囉来里理話 (160 字)</p> <p>第三学年 悪安暗医委意育員院飲運泳駅央横屋温化荷界開階寒感漢館岸起期客究急級 宮球去橋業曲局銀区苦具君係輕血決研泉庫湖向幸港号根祭皿仕死使始指齒 詩次事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身 神真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題炭短談着注柱丁帳調追定庭 笛鉄転都度投豆島湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆氷表秒病品 負部服福物平返勉放味命面問役菓由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列練 路和 (200 字)</p> <p>第四学年 愛案以衣位^茨印英榮^媛塩^岡億加果貨課芽^賀改械害街各覚^瀧完官管関観願^岐 希季旗器機議求泣給拳漁共協鏡競極^熊訓軍郡^群徑景芸欠結建健験固功好^香 候康^佐差菜最^埼材^崎昨札刷殺察參産散残氏司試児治^滋辞^鹿失借種周祝順初松 笑唱燒照^城繩^臣井^成省清静席積折節説淺戦選然争倉巢束側続卒孫帶隊達 単置仲^沖兆低底的典伝徒努灯働特^徳柄^奈梨^熱念敗梅飯^阪飯飛必票標不夫付 府^阜富^副兵別辺変便包法望牧未満未民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例</p>	<p>・都道府県名に用いる漢字 25 字を配当。 ・[○]は、学年別漢字配当表に新たに加わった漢字。 ・[●]は、他学年から移行した漢字。 5 年から「賀・群・徳・富」(4 字)。 6 年から「城」(1 字)。</p>

<p>現行学習指導要領 (平成 20 年告示, 平成 27 年一部改正)</p>	<p>新学習指導要領 (平成 29 年告示)</p>	<p>ポイント</p>
<p>労録 (200 字)</p> <p>第五学年 庄移因永営衛易益液演応往桜恩可仮価河過賀快解格確額刊幹慣眼基寄規技 義逆久旧居許境均禁句群経潔件券険検限現減故個護効厚耕鉞構興講混査再 災妻採際在財罪雑酸賛支志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準序招承証条状 常情織職制性政勢精製税責績接設舌絶銭祖素総造像増則測属率損退貸態団 断築張提程適敵統銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦富武復復仏 編弁保墓報豊防貿暴務夢迷綿輸余預容略留領 (185 字)</p> <p>第六学年 異遺域宇映延沿我灰拈革閣割株干卷看簡危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇 激穴絹権憲源敵己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁策冊蚕至私姿視詞誌 磁射捨尺若樹収宗就衆從縦縮熟純処署諸除将傷障蒸針仁垂推寸盛聖誠宣 專泉洗染善奏窓創装層操蔵藏存尊宅担探誕段暖値宙忠著庁頂潮賃痛展討党 糖届難乳認納脳派拝背肺俳班晩否批秘腹奮並陛閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密 盟模訳郵優幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論 (181 字)</p>	<p>連老労録 (202 字)</p> <p>第五学年 庄用移因永営衛易益液演応往桜可仮価河過賀快解格確額刊幹慣眼紀基寄規喜 技義逆久旧救居許境均禁句型経潔件険検限現減故個護効厚耕航鉞構興講 混査再災妻採際在財罪殺雑酸賛士支史志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準 序招証象賞条状常情織職制性政勢精製税責績接設絶祖素総造像増則測属率 損貸態団断築貯張停提程適統堂銅導得毒独任燃能破犯判版比肥非費備評貧 布婦武復復仏粉編弁保墓報豊防貿暴脈務夢迷綿輸余容略留領歴 (193 字)</p> <p>第六学年 胃異遺域宇映延沿恩我灰拈革閣割株干卷看簡危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬 警劇激穴券絹権憲源敵己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁策冊蚕至私姿視詞誌 視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆從縦縮熟純処署諸除承将傷障蒸針仁垂推寸盛 聖誠舌宣專泉洗染錢善奏窓創装層操蔵藏存尊退宅担探誕段暖値宙忠著庁頂 腸潮賃痛敵展討党糖届難乳認納脳派拝背肺俳班晩否批秘俵腹奮並陛閉片補 暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訳郵優預幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論 (191 字)</p>	<p>・○は、他学年から移行した漢字。 ・全て 4 年から移行(21 字)。</p> <p>・○は、他学年から移行した漢字。 ・4 年から「胃・腸」(2 字)。 ・5 年から「恩・券・承・舌・銭・退・敵・俵・預」(9 字)。</p>